



町内会短信 10月号

神無月

2021年10月1日
川沿中央第一町内会長
柴田田鶴子

昨年9月・10月の町内会短信を改めて読み返しますと、昨年も「中秋の名月」はあったはずなのに、そのことには一言も触れておらず、安倍首相の突然の退任、そして「コロナから国民の命と健康を守る」菅首相の登場。それから約1年、綱渡りの様なオリンピック・パラリンピックを終え、1年経って見たらもう首相交代と、名月を楽しむ風情などはどこかへ吹き飛んだ感がありました。そんな我々を哀れむかの如く今年9月22日は8年振りの満月となった中秋の名月を雲ひとつない夜空で満喫された方々も多かったと思います。当日夕方、ススキを山ほど抱えて帰るご近所さんの姿に当方もほほえみながら「今晚わ」の挨拶を交わしました。

“名月やあといくたびの逢う瀬かな” 余生を生きる儚さを込めて……。

9月の三役会議の時、高齢世帯の見守りの話になり、新聞報道に依ると「一人住まいの高齢者」はもちろん第一に見守りが必要だが、ここ1・2年増えているのは「高齢者二人世帯」で、介護していた一人が倒れたら、介護されていたもう一人は、倒れた介護者の傍らで共倒れとなる事例が多発しているという記事が特集されていることが話題になりました。見守る側は「二人暮らしだからあそかは安心」ということでは決してないことを心にとめておかねばというお話でした。

9月20日の敬老の日、当町内会では99歳の**白寿**がおひとり、88歳の**米寿**の方が14名いらっしゃいました。白寿者へは連町会長と当町内会長が、米寿者14名は当町内会福祉部長と副部長が連れ立って一軒一軒まわり、当町内会と連町の祝品をお届けしました。

9月の町内会行事実施報告

9月1日(水)	どんぐり公園清掃日	9:30~10:30	Dグループ(16~20班)
9月8日(水)	ふれ合いガーデン整備実施日	8:30~9:30	
9月15日(水)	どんぐり公園清掃日	9:30~10:30	Eグループ(21~24, 28~29班)
9月20日(日)	高齢者宅へ祝品贈呈	会長、福祉部長・副部長	
9月22日(水)	ふれ合いガーデン整備実施日	8:30~9:30	
9月29日(水)	どんぐり公園清掃日	9:30~10:30	Aグループ(1~5, 25~27班)

連合町内会関係 9月18日(土)開催予定の連町パークゴルフ大会は中止となりました。
9月26日(日)連町で新設された町内会ホームページに当町内会も紹介されることになり、資料を出しました。

敬神講関係 9月11日PM3:00~、12日AM11:00~。両日程とも柴田会長が出席しました。

10月の町内会行事予定

10月3日(日)	部長以上役員会	10:30~	於 地区センター調理室
10月6日(水)	ふれ合いガーデン整備実施日	8:30~9:30	くらい
10月13日(水)	どんぐり公園清掃日	9:30~10:30	Bグループ(6, 7, 8, 9, 10班)
10月20日(水)	ふれ合いガーデン整備実施日	8:30~9:30	くらい
10月27日(水)	どんぐり公園清掃日	9:30~10:30	Cグループ(11, 12, 13, 14, 15班)

【川沿ふれ合いガーデン便り】 少し涼しくなり草取り作業もちょっとラクに。筆者もそろそろ年でヒザが痛いと思っておりましたが、隣で黙々と草取りをしているSさんの右膝にはサポーターが、その向こうのFさんの指はリウマチだということで、テープで指がグルグルに。お元気な男性のKさんは力余って向いの学習塾の草まで根こそぎ、とても雑草が気になるそうです。皆さんの熱意に頭が下がります。コスモスは今が盛りですよ。

裏面へ

郷土史より(視野を広げて)―クラーク博士の志(3)

郷土歴史家 吉田邦行



生徒の多くは元武士の次男・三男で、国に食いぶちの無い者たちだった。しかし、元武士で身分意識が高かった名残で農民と同じ仕事をする、この現実に鬱積した感情を持っていた。だから、連日のように酒を飲んで荒れていた。生徒にいくら注意しても聞く耳持たない連中であつた。開校から一ヶ月で5人が退学処分となつた。荒れる生徒のために厳しい校則が作られた。それは日常生活すべてに対して子供扱いの校則であつた。学校の特色として授業はすべて英語、だから一期生で卒業できた者はわずか13名であつた。他にもキリスト教への宣教、禁酒禁煙と厳しい内容であつた。全寮制の食事は洋食、パンと肉が中心で、米飯禁止であつたがカレーライスだけは許された。

この様に問題だらけの生徒に加えて、牛のエサとなる牧草の作付を農家に依頼しても相手にされなかつた。酪農に対してなじみのない農家には畑で草を育てることなど理解できなかつたのである。それでも熱心に説明し協力を求めた。また、生徒たちに対してクラーク自身は、大の酒好き。だから生徒たちを大目に見ていたが限界に達し、アメリカから持ち込んだブランデーをたたき割り「私は今後一切酒を飲まない、だから君たちも酒をやめるんだ！」と禁酒宣言をした。更に、細かく定められた校則を破り捨て「Be gentleman!」、即ち規則は只一つ「紳士であれ！」と一括したのである。札幌独立キリスト教会には、生徒たち直筆の「イエスを信じる者の誓約」があり、酒をやめ勉学に励むと誓った生徒全員の署名が保管されている。その後、生徒たちは教頭を信頼し、お互いの関係は親密となつた。

観光都市・札幌のシンボルとして時計台が有名である。以前は演武場として武道や軍事訓練を行う施設であつた。帰国が近づいた頃、西南戦争が勃発した。クラーク教頭の脳裏には、もし戦争が拡大したら生徒たちが、巻込まれるかもしれないという不安があつた。帰国後「北海道の開拓をどう進めるべきか」について提言をまとめ、日本政府に提出した。そこに記されている項目に演武場の建設を要請するものがあつた。その提言はすぐ採用され、基本設計はホイラーで協議しながら開拓使営繕課が建築し、明治11年9月に完成した。1階は事務室・展示室・教室に区割りされ、2階は武道や軍事訓練の場と武器保管庫になっている。内部に柱が無く大きな空洞(バルーンフレーム構造)になっており、アメリカで流行していた建築様式である。生徒たちに武器の取り扱いや、格闘術など自ら身を護るための手法を学ばせようとしたのである。そこには「二度と教え子たちを戦争で失いたくない」という強い願いが込められていた。

演武場が現在の姿になつたのは、明治14年7月に時計塔が改築されてからである。アメリカに注文してあつた大時計が到着し、農学校教師ピーボデーがこれに自鳴鐘を取り付け、周囲に澄み渡る鐘の音で「標準時」を知らせるようになったのである。(つづく)